

取扱注意

禁複製

09.2 改訂

特定非営利活動法人 動物愛護市民団体  
JCDL(Japan canine defense league)  
(大阪府知事認定 動物取扱業届出済団体)

<http://jcdl.jp/>  
e-mail: [npo@jcdl.jp](mailto:npo@jcdl.jp)

## シェルターワークマニュアル

### Manual for sheltering animals

注：このシェルターワークマニュアルは、JCDLのシェルターにおいて、3ヶ月以上、延べ日数12日以上活動された方、もしくは活動期間の延べ日数が30日以上に至った方、他の提携動物愛護団体、提携の個人の愛護活動家、JCDLを支援下さっている関係者また一般の愛犬家に配布し、広くシェルターでのノウハウを開示提供し、動物愛護福祉の向上に役立てようと考えたものです。

## 目次

1. 組織
2. ボランティアスタッフ、インターシップ生同士のコミュニケーション
3. 安全に関して
4. 設備、備品
5. 犬のお散歩
6. 給餌、給水
7. 子犬の衛生管理について
8. 犬同士のケンカ防止
9. シャンプー、グルーミング、カット（犬のケア）
10. 犬の躰
11. 動物医療
12. ホームチェック
13. 安楽死に関する議論
14. 葬儀、埋葬
15. その他
16. 用語解説
17. 募金箱設置パートナーシップ店一覧
18. 事業活動報告
19. 決算報告
20. 犬の十戒
21. 会則
22. あとがき

## 1. 組織（大阪府知事認定動物取扱業届出済団体）

NPO 法人認定 2006 年 6 月 30 日

設立 2001 年 10 月 1 日

理事長 門田充博 大阪府知事認定 動物取扱主任者 初版いぬだす大阪著者

監事 TKC 全国会 栗谷会計事務所

専従 6 名 ボランティアスタッフ 4 名（2009 年 1 月現在）


保護頭数 犬 35 頭 猫 36 匹（2009 年 1 月現在）

本部事務局 第 1 ドッグシェルター、1 号キャットハウス、キャットルーム 吹田市（約 200 坪）

第 2 ドッグシェルター、2 号キャットハウス 吹田市（約 80 坪）

複合専用シェルターの建設に向けての準備と資金調達を進めております。



ロゴマーク  は、実際に保護したワンちゃんをモチーフにしています。ロゴマークのワンちゃんは、ウィッシュボーン（男の子）吹田市の竹藪に捨てられていた子で、2000 年 4 月に保護し（保護時点で推定年齢 6 ヶ月くらいと思われる）動物愛護市民団体 JCDL の看板犬として各種専門学校や大学等への企業説明会、各種催事、マスコミ取材等で大活躍しています。

## **JCDL が加盟登録しているボランティア協会**

社会福祉法人大阪ボランティア協会（大阪市北区同心）

社会福祉法人吹田市社会福祉協議会

社会福祉法人箕面市社会福祉協議会

社会福祉法人摂津市社会福祉協議会

社会福祉法人茨木市社会福祉協議会

社会福祉法人豊中市社協ボランティア連絡会

社会福祉法人池田市社会福祉協議会

大阪市東淀川区社会福祉協議会

JCDL のシェルター御見学は随時受け付けております。

但し犬が飛びついて衣服を汚したり、何らかの諸々のアクシデントに関して JCDL では一切の責任を負いませんので、御了解の上で見学に御来所願います。



2009年2月11日(水)イオン幸せの黄色いレシート  
キャンペーン南千里ジャスコでの活動  
現在も継続中



2007年5月3日(祝)吹田市の総合ペットショップP&LUXE様主催の  
ワンちゃんネコちゃん譲渡会「愛で命は救えます」での里親募集活動  
現在も継続中

## 2. ボランティアスタッフ・研修生（専門学校、 高校、大学生）へのコミュニケーション

1. お互いに「おはようございます」「お疲れ様です」「お先に失礼します」「ありがとうございます」等、感謝の気持ちを込めて明るく適正に挨拶を励行して下さい。
2. 他の動物愛護団体の方や御見学者、その他のお客様にも同様に御挨拶いただけましたら幸いです。
3. シェルターの品格や組織風土の形成は研修生・ボスタッフ皆様1人1人の日頃からの礼儀正しい態度によって決まります。どうぞ御協力の程をよろしく願います。
4. 動物愛護市民団体「CDL」では御希望の方にメールマガジンを配信し、日頃からの活動の状況を広く周知させていただいております。

### 3.安全に関して

1. 研修生ボランティアスタッフの皆様方は、吹田市社会福祉協議会、あるいは北摂各市の社会福祉協議会のボランティア保険に御加入をお願いしております。  
(任意) 年間の掛金は、500円(掛捨て)となっております。
2. 活動中のアクシデント、事故、トラブル等一切の責任をJCDLは負いません。  
各人の自己責任のもとにおいて活動をお願いいたします。
3. 天候等各種の警報(波浪警報は除く)が発令された場合は、活動を延期あるいは、中止、または屋内での活動に移行して下さい。
4. シェルターにつながる階段は犬に引っ張られて転倒しないように、くれぐれもご注意下さい。階段上部のフックにリードを繋げば危険防止に役立ちます。
5. 階段を降りる際はリードを短めに持ち、引っ張られた際にはリードを少しずつゆるめて(少しずつ長くしていく)クッションにしながら降りると、犬もハンドラーも少し楽です。また上部にリードを掛けるフックを用意していますので御利用下さい。
6. ドッグラン内で犬が掘った穴はその都度土で埋めて足をとられない様にして危険防止に努めて下さい。
7. 初めて接する犬には、円をえがくように湾曲に近づき(まっすぐ正対して近づかない、犬同士が近づくようにする)静かにしゃがんで丸めた手(こぶしをグーにする)を犬の口よりも低く差し出し人の臭いを充分にかがして犬の緊張を解きほぐしてから、丸めた手で胸等を軽く優しく撫でてあげて下さい。
8. 初めて接する犬は、しゃがむ事によって犬から自分の方に来させるのが大切です。それにより犬と人との安心感を犬が得るのです。
9. 犬が人のことを最も警戒し威嚇するのは、かん高い声を出したり、騒がしく走ったりすることです。イギリスでは小学生くらいの男の子が最も犬に噛まれるという統計があります。
10. 犬がさわられて最も嫌な所は、マズル(鼻)、尻尾、足の先等です。

11. 犬を触る時、頭の上から撫でるのは、たたかれたりしている犬はとても危険を感じます。必ず口よりも下から手を出す様にしましょう。また手は丸めてグーにし、もしもかまれても被害が少ない様にして下さい。
12. 雨の日のお散歩はカサをさすのではなく、レインコートを着用して、両手が使える様に安全を確保して下さい。

#### 4. シェルターの設備・備品

1. 第1シェルターは約200坪の敷地があります。第2シェルターは約80坪の敷地があります。
2. 第1シェルターのドックランは1号ドックラン、2号ドックラン、3号ドックラン、4号ドックランが各ゲートで仕切られています。第2シェルターは1号ドックラン、2号ドックラン、がありゲートで仕切られています。
3. 第1シェルターには犬専用の冷暖房完備のドッグルーム(6畳)と冷暖房完備の猫専用キャットルーム(6畳)、冷暖房完備の1号キャットハウス(10畳)が完備されています。
4. 第2シェルターには冷暖房完備の猫専用第2キャットハウス(8畳)が完備されています。
5. 犬の性格や群れの中での相性、その時々頭数や小型犬中型犬大型犬等を勘案しながら各ドックランに振り分け収容しています。
6. 各ドックランに設置していますラジオは音楽や人の声を聴かせる事によって犬を落ち着かせ安心させる効果があるからです。
7. 万が一の逃亡に備えて首輪自体に直接通すJCDL特注専用ネームタグを保護犬保護猫(只し猫によっては装着不可能な場合有り)に装着し、早期発見、犬の安全確保に努めています。
8. ドッグルームのトビラ(引き戸)は犬一頭が通れるくらいあけて下さい。冷暖房費の節約、一時的にゲージに入っているワンちゃんのほえる声を少しでも外部にもらさない為です。
9. 猫専用の1号・2号キャットハウスは2重のとびらとし人の出入りで万が一の逃亡を防いでいます。また各窓には猫が開けない様にサッシストッパーを取り付け万全を期しています。
10. 第1シェルターの2号ドッグランにあるミニプールの役割は、夏場犬達が水の中に入り、体を冷やす役目があります。
11. 各シェルターはほとんどが、土と草のドッグランになっています。ワンちゃんの足腰への負担の軽減、処理した後微量に残ったフンや尿は昆虫や微生物が自

然に分解していますので、臭い等が残らないよう土と草のグラウンドを大切にしています。

12. 第1シェルターの1号ドッグランには容量4.2Kg、2号ドッグランには容量5Kg、ランドリー置場には8Kg・7Kgの洗濯機が4台設置されています。ドッグルーム内の敷物、犬小屋の敷物、リード、カラー及び犬の服の適時洗濯をお願いいたします。また、洗濯物を多く入れすぎますとエラーが出ますので御注意下さい。衣類乾燥機は2台設置していますので、季節天候によって御使用下さい。
13. 犬小屋は第1シェルターに17軒、第2シェルターに7軒設置しています。第1シェルターには別に6畳冷暖房完備のドッグルームと、その中にケージを1台用意してあります。
14. 春夏はドッグルーム内に、犬の体を冷やす役目があるアルミニウム製のクールボードを設置し、より一層犬が暑さをしのぎ、快適に過ごせるように配慮しています。
15. シェルター内には業務用の掃除機等を設置しています。適時屋内のお掃除をお願いいたします。
16. ボランティアスタッフ・研修生のトイレは、本部事務局家屋内のお手洗いを御使用下さい。また、近隣の公園内にも公共のお手洗いがございます。
17. 水道の水栓は第1シェルターには1号ドッグランに設置されています。

## 5. 犬のお散歩

1. お散歩は安全を最優先に行ってください。他の人にはさわらせない、他のワンちゃんに会っても避けて通ってください。
2. 各ゲートや室内や屋外につながるドアはしっかりと閉めてワンちゃんが所定の場所から出ない様にして下さい。特に室内から室外へ通じるドアは必ずその都度ロックをして下さい。ワンちゃんによってはL字型のレバーを開ける賢い子がいます。
3. ワンちゃんは一頭一頭性格がまったく違います。JC DLのHPを見たり、お散歩中に個体それぞれの性格をよくつかみましょう。
4. 順番はその時の現場の状況(犬の性質の強弱、年齢、個体の大小、天候等)によって決めています。
5. 糞便は基本的に持ち帰って下さい。ただし公園にゴミ箱等がある場合はそこに捨てて下さい。
6. お散歩に連れて行く時のワンちゃんの交代は素早くし、犬を出来るだけ吠えさせないように努めて下さい。
7. 研修生やボランティアスタッフがその時の御来所3名以上の場合は一緒に固まって3人でお散歩に行くことは避けるようにして下さい。3頭一緒に行きますと、近隣住民や通行人に対してストレスを与える場合があるからです。2人1組3頭以下でお散歩はお願いいたします。
8. お散歩のコースは近隣住民の迷惑にならない様にコースを一回一回変えて下さい。
9. お散歩はボランティアスタッフ1名あたり1回のお散歩につき2頭までとし、安全の確保に努めて下さい。但し、犬の扱いに慣れている方、小型犬や老犬等は勘案しその限りではありません。
10. お散歩中に何かアクシデントがあればすぐに担当者の携帯に連絡して指示を仰ぐようにしましょう。080-5333-9031
11. ワンちゃんが吠えるのはお散歩に行く時一斉に皆吠え出します。吠える子には各所に設置している、しつけ用スプレー等で水をかける等して対応して下さい。

12. お散歩時のリードは一般的なリードとフレキシリード（伸縮するリード）とに分かれます。犬の性質や運動量、各人の犬の扱いの技量等によって使い分けをお願いいたします。
13. フレキシリードは最大 18m まで伸びるプロ用も御用意しています。ただし、安全を考慮して一般道では適正な長さでお散歩して下さい。公園等の広い所ではフレキシリードは犬の運動量を格段に増やし、ハンドラーも楽でたいへん便利なリードです。
14. 本部第一シェルターのゲートの止め金はその都度掛けてお散歩に行く様にして下さい。止め金を掛け忘れますと、犬によっては、雷が来た時、近隣の方がゴルフの打ちっ放しの練習をされる時の音、自分が先にお散歩に行きたい時等、おびえたり興奮したりしてラッチを開けてしまって逃亡の原因や他の犬とのケンカの原因となる場合があります。
15. 当日、翌日の天気予報を良く把握し、ひとつひとつの活動の優先順位を決めて下さい。
16. 犬のお散歩は 1 時間かけて行くよりも 30 分を 2 回に、40 分行くよりも 20 分を 2 回に分けて行く方が犬のストレスの軽減につながります。
17. 散歩の一匹あたりの時間はその日の天候やスタッフの人数、ワンちゃんの体調や年齢によって変化します。
18. お散歩の時には糞便が血便になっていないか、下痢、軟便ではないか、尿が正常な色をしているか（血尿になっていないか）等、日常のチェックが大変重要で、疾病の早期発見につながります。
19. 日常のお散歩で犬の動作（歩き方やスピード、姿勢）を観察し、いつもと違う様な時は注意が必要です。
20. 犬の個体によって糞便の大きさ、色、形等が違います。日頃からよく観察しておき、犬の個体の糞便の大小や形状をよく認知して、日常の健康管理に役立てましょう。
21. カラー（首輪）が、適正に装着されているか日頃からのチェックが必要です。適正な装着とは、人差し指と中指が入るくらいの余裕が必要です。しめつきすぎますと犬の負担が大きくなってストレスの原因にもなりますし、ゆるすぎますと、お散歩中等にカラーが犬の頭から抜けて、逃亡の原因ともなり得ます。

22. 全ての犬には、JCDLのネームタグがカラーに装着されています。キチンと装着されているかもチェックして下さい。
23. カラーの破損や磨耗、著しい汚れ等は、アクシデントにつながりかねませんし、犬がみすばらしく可哀想にうつるので、随時カラーは新しいものと取換えたり洗濯をする事を心掛けています。
24. JCDL第1シェルターから片道5～6分以内には、東にむらさき公園（周囲600m）、高野台グラウンド、西にホテルで有名な高町池公園（周囲600m）等の公園が多数あり楽しくお散歩が出来る環境です。
25. 犬を連れての長距離のロングウォークに行ってお散歩も可能です。例えば、午前中に連れ出し夕方に戻ってくる等、時間や目的地等もご相談下さい。
26. 雨の日のお散歩は、雨量や、犬の年齢、健康状態、犬種等を勘案してお散歩に連れ出すか、お散歩は中止するかを決定します。
27. 雨の日でも、お散歩以外の活動は多岐に渡ります。糞便の処理、犬と一緒に遊ぶ、夏季のサマーカット、シャンプーやブラッシングや爪切り等のグルーミング、給餌給水の世話、事務、募金活動、募金の回収、新規募金箱の設置、シェルター内の整理整頓、設備の補修、リネン類の洗濯、乾燥等色々する事はたくさんあります。
28. 仲が極端に悪い子同士もいる場合がありますので一緒にしない様注意が必要です。

## 6. 給餌給水

1. 食器・給水器はすべてステンレス製を採用しています。プラスチックは犬が噛んでボロボロにしたり、環境ホルモンが溶出し、犬の健康に少なからず影響を与えるからです。
2. ドックランに設置している給水器は酸性雨の入らない家屋の軒下等に設置して下さい。
3. 7～8月は給水器に保冷剤容器を入れ、冷たい水を与える様配慮しています。
4. 食器の洗浄すすぎ手順は洗剤が100%除去されるように念入りに行ってください。
5. 多頭数いるドックランでの給餌は犬の性質の優劣や体力等を勘案して出来るだけ食事の入った食器は離して置き、弱い犬が他の犬によって食事を盗られたり、妨げられる事を少しでも防ぐ様リード等で一時的に繋ぐ様な工夫が必要です。
6. 弱い犬、性格がおとなしい犬は食事を横から盗られたりしますので、犬小屋に食器を入れ、安心して1頭だけで食事をさせたり、備品や家屋のコーナー等に置いて、他の強い犬から食事を守って盗られない工夫が必要です。
7. 食事をよく他犬に盗られる犬の場合は、ボランティアスタッフがついて、他の犬から守って食事を採らせるのもひとつの方法です。
8. フードは主にドライフードのプレミアムフードや御支援でいただいている支援物資のフード各種を混ぜて使用しています。
10. 犬の年齢、犬種、運動量、その時の体重等によって、食事の量、回数、給餌時間を調整しています。
11. 食事の時間はあえて決めていません。その理由としては、食事の時間になると吠え出したり、イライラしたりして犬同志のケンカが始まったりするからです。
12. 朝の給水は最初の水道水を5秒程度流してしまい、水道管に残っている水をすべて流して、水道管から溶出する有害物質を確実に除去する作業を行っています。
13. 給水の飲み水は、秋・冬は毎日1回程度、春・夏は毎日2回程度替えています。

## 7. パピー(子犬)の衛生管理について

子犬達が健康でいる為の3つの対策

健康診断...毎日欠かさず健康チェック

チェック項目

体温・体重・心拍数

顔が左右対称か？

目ヤニ・涙やけ・結膜炎はないか？

鼻の穴があいているか？

耳の汚れ・ダニはないか？

顎の下に湿疹はないか？

のどを触って咳をしていないか？

へそのヘルニアはないか？

足の付け根がポツコリになってないか？

狼爪の取り忘れはないか？

足裏がカサカサしていないか？

毛づやは良いか？

体に湿疹はないか？

お尻が汚れていないか？

便の検査...全ての便の臭いをかく

ワクチンの注射...生後45～60日に1回目、75～90日に2回目、105日～120日に3回目

衛生的な環境作り

便・尿の清掃...効率よく清潔に

消毒薬の使い方...場所や用途別に分けて使う

パピールームの温度・湿度・臭い...約25度・湿度約60%・空気清浄器の使用

細菌感染経路の遮断...出入りするスタッフを限らせる・徹底消毒

出入りするスタッフは毎日必ず風呂に入り体の洗浄を確実にを行う

出入りするスタッフは春夏等1日1回Tシャツ等の上着を交換する。

動物の変化にすばやく気づく

日頃から個体の特徴をつかみ、観察力、洞察力を養う

食欲

便の状態

咳・くしゃみ

嘔吐

身体的な変化

## 8. 犬同士のケンカの防止

1. ボランティアスタッフの来所時等は喜びのあまり犬が興奮してケンカが発生する場合がありますので速やかに入所し、犬を落ち着かせましょう。
2. 散歩に行く際も犬が興奮してケンカを誘発する場合がありますので、仲良くない犬同士は一時的につないだり、ドッグルームに隔離するような処置をして安全を確保下さい。また1号ドッグランには10畳程のサークルを設けているので、そこに隔離するのも方法です。
3. 犬同士が噛み合ってもどうしても離れない場合は、ミニプールに2頭を入れて離して下さい。
4. 犬同士のケンカが発生する前兆を感じたときは、プレスリー缶(缶の中に10円玉等が入っていて此プレスリーの様な音を出す)を鳴らして、犬に対して警告を発して下さい。
5. 犬同士のケンカが発生した場合は、給水用のバケツの水を犬の頭に浴びせて、ケンカを止めて下さい。
6. 極端に仲の悪い犬同士は、それぞれ別のドッグランや屋内に隔離しています。
7. ケンカがはじまってしまった場合は、カラーをつかんではいけません。犬の首は180度背中の方に回り、日頃慣れ親しんで愛情を感じているボランティアスタッフ、研修生の皆様方でさえも、犬が興奮しているので噛まれる恐れがあるからです。
8. 犬のケンカの際は、後ろ足をつかんで離すか、尻尾をもって離すようにして下さい。ただし、尻尾は犬にとって急所ですので反動をつけたり、強く引っ張らないように注意をお願いします。
9. ドッグラン内では落ち着いた小さい声で犬に話しかけ、大きな声やカン高い声などは犬がより一層興奮するのでご注意下さい。

## 9. シャンプー・グルーミング・カット（犬のケア）

1. 春から夏にかけてサマーカットを実施し、保護犬をより快適に、かつ健康的にお手入れを実施しています。サマーカットは1頭あたり2回程度行ないません。ただし老犬等はその都度勘案しています。
2. シャンプーの頻度は、秋冬は約1ヶ月に一度程度、春夏は約3週間に一度くらい行なっています。
3. ブラッシング、爪切り、耳掃除等のグルーミング、歯石取りは随時行っています。
4. カラー(首輪)の適切な装着はカラーと犬の首の間に指2本が入るくらいの余裕を持たせて下さい。カラーが犬の頭から脱落しない様にチェックし、日頃から犬の体重等を勘案して、カラーのサイズを調整する事が大切です。
5. JCDLで保護している犬は全頭OFFリードの放し飼いでケアしています。犬を常時鎖でつなぐ事はJCDLでは動物の愛護、福祉の観点から容認していません。

## 10. 犬のしつけ（犬から尊敬される人間になる為に）

1. 犬から尊敬される人間になるように心掛けましょう。
2. 絶対にたたいたり、蹴ったりする様な体罰を与えてはいけません。
3. 犬から尊敬される、好かれる為には指導力、統率力、観察力、洞察力、包容力等の目に見えないその人の見えない力が必要です。
4. シェルター内の犬はチームを組み(群れ)生活しています。彼らからの信頼を得る為には、優しく接する事と同時に、いけない事には毅然とした態度を明確に示す事も大切な要素です。
5. 99回誉めて1回叱るくらいのおおらかな気持ちで犬に接しましょう。
6. あなたの事を犬が精神的に大好きになるよう触れ合ってください。
7. 犬の名前を呼んで犬とのアイコンタクトができるようになって下さい。

## 11. 動物医療

1. 茨木市の動物病院と提携し、連携を計っています。
2. シェルター内にはフィラリア薬（モキシデック錠、カルドメックチュアブル）、フロントライン等のノミダニ駆除剤、外傷薬、止血剤、消炎剤、下痢止め薬、虫下し、点眼薬、抗生物質、皮膚病薬、消毒液、消臭剤等の動物医薬品、動物医薬部外品を獣医師の処方に基づき、常備しています。
3. フィラリア薬は5月から11月までの7ヶ月間主にカルドメックチュアブル、(ハバグ状の動物医薬品)モキシデック錠を投与しています。
4. 狂犬病予防接種、混合ワクチンの接種は随時行っています。
5. 日頃から犬の体を手でさわって、しこりや腫れ物がないか、目視で傷がないか、トップコート、アンダーコートをかき分けたり、ノミ取りコーム等でノミやダニ（特に耳の内側等）がついていないか確認して下さい。
6. 口の中を見て、歯石の付き具合等もチェックして下さい。
7. 口の中に指や歯ブラシを入れさせてくれない犬等は、くちびるの上から歯茎をマッサージするのは歯茎を強くしたり、歯石予防にも効果的です。

## 12.新しい飼い主様へのホームチェック

1. 里親様の住所、飼育管理場所の確認にホームチェックを実施しています。
2. ホームチェックの必要性としては、里親御希望調査票に虚偽の記載がないか、直接出向いて調査確認を行ないます。また、ワンちゃんが適切に飼育できる環境にあるかどうかあわせて確認しています。
3. ホームチェックは基本的に全部で3回行ない、1回目は里子に行く前、2回目は里子に行ってから1週間後と3回目の最終ホームチェックは1ヵ月後に行なっています。
4. 2回目のホームチェックは、電話問診やメールでのやりとり、新しい飼育環境や新しい飼い主様の写真の請求等で確認して問題がない場合は免除する事もあります。
5. 最終(1ヵ月後)のホームチェックは必ず実施いたします(但し例外有り)
6. ワンちゃんが届く範囲に危険物はないか(コンセント、電気コード、殺虫剤等)も新しい飼育管理場所でチェックいたします。
7. ワンちゃんが逃亡しないように柵や塀など高さ、穴がないか強度がしっかりしているか等を確認する。
8. ワンちゃんの飼育には費用がかかります、経済的にもワンちゃんが飼えるかどうか大切な要因です。
9. 新しい飼い主様がどれだけワンちゃんと一緒にいて第2の犬生を一生懸命見ていただけるかが里子に行く子達の幸せにつながります。

## 10. 遠方の方へのホームチェック

遠方の方(大阪からは往復で3,4時間以上かかる地域にお住まいの方)へのホームチェックは以下のようにして行なっています。

1. 里親御希望の方には、電話での問診の後、里親希望調査書をEメール、ファックスまたは郵送で送信し、返信の際に、住民票の写しなど里親様が実際に調査票に記載された住所に居住している事を公的に証明する書類と、飼育管理場所、並びに、ご自宅の写真をJCDLにお送りいただきます。それを元に弊団体が書類審査を行ないます。
2. 書類審査に合格いたしましたら、JCDLに御来所いただくか各種公的書類や覚書を取り交わした後、ワンちゃんをお引渡しいたします。
3. 最終のホームチェックは、一ヵ月後、前回お送りいただいた飼育管理場所において、里親様とワンちゃんとのツーショット写真とお散歩中の写真を何枚か撮影していただき、JCDLにお送りいただきます。それをもって最終のホームチェックと致します。

### 13. 安楽死に関する議論（重篤な疾病についてのみの場合）

動物の安楽死に関しては賛否がいろいろあります。獣医師にしても安楽死を選択する獣医師、安楽死をしない、飼い主にさせない獣医師もいます。

また、動物愛護団体の中には年間数10頭の犬猫を安楽死するシェルターもあれば、絶対に安楽死を容認しない動物愛護団体もあります。欧米の動物愛護団体では厳しいガイドラインを策定し、獣医師、トレーナー、カウンセラー、現場の責任者が協議し、最高責任者が最終判断を下すのが一般的なようです。つまり欧米の動物愛護団体のほとんどが安楽死を容認実施しているのが現状です。

さて人間の医療現場はどうでしょうか？ 欧米の一部では尊厳死という観点での安楽死が認められる国も少なからずあります。日本では法的に認められていませんし、犯罪となります。但し、人と動物とはまったく違うかもしれません。

この議論に関して、日本で活動する特定非営利活動法人 動物愛護市民団体 JCDL では安楽死に関しては永遠のテーマと位置付けております。皆様方のご意見をお待ちしております。但し JCDL では今まで安楽死を選択した事は一度もない事を申し添えます。

#### 付記

ドクターズアドバイスマニュアル（犬の病気編）James N. Giffin and Liisa D. Carlson（監訳 柴内裕子）によると「ペットを苦痛から救うために、致死的で痛みのない方法で行なう人道的処置」とあります。

また、同書籍での安楽死についての詳細は以下の様なものです。

#### 犬を永眠させる（安楽死）

犬を永眠させる必要がある場面を迎える時もあるでしょう。これは飼い主にとっても獣医師にとってもむずかしい決断です。多くの高齢犬や病気の犬は、平均的な健康な犬よりもほんのちょっと多めの思いやりと、優しく愛情のこもったケアがあれば、きわめて快適に過ごすことができます。高齢になった犬でも愛する人たちと共に何ヶ月も何年も幸せな時を享受できる場合もあります。しかし喜びと楽しさに満ちた生活も終わりを告げ、改善の望みもなく痛みも激しい進行性の病気に犬が苦しむ時には、安楽に、苦しませずに命を終わらせてやるのが私たちが犬に示せる最後の思いやりでしょう。麻酔剤を適切な量だけ静脈注射してもらえば、すみやかに意識喪失と心停止に至ります。

ドクターズアドバイスマニュアル（犬の病気編）P359

## 14. 葬儀・埋葬

1. シェルターで保護しているワンちゃん猫ちゃんが死亡した場合は、ボランティアスタッフのみならず、慈しみ可愛がって下さった一般の愛犬家の皆様方、他動物愛護団体等関係者の皆様方へ会員メール、FAX、等で訃報を配信しております。
2. お通夜、葬儀も人と同じようにシェルター内と提携先の吹田動物霊園様でとり行ないます。
3. 死因の特定原因解明、動物医療、獣医師の技量向上の為に、提携動物病院で解剖を行ない、今後のシェルター内での治療、医療マニュアル、獣医学の充実に役立てる場合があります。
4. 日本人は「解剖」をすることに抵抗があります。しかし、疾病の経過などを未然に察知し、早期治療を今後のシェルター内の犬に施す事が出来ます。獣医師も今後の動物医療に大変有益だと考えています。
5. 獣医師の経験によりますと、動物病院での死後の解剖は皆無に等しいということです。動物医療現場からの要望は「これからの獣医学の発展の為に必要ではないか」という意見があります。特定非営利活動法人 動物愛護市民団体 JCDL では積極的に死因の解明に取り組んでおり、皆様方のご理解を求めていく所存です。
6. 焼骨・納骨安置は提携先吹田動物霊園様に依頼しております。
7. 埋葬は特定非営利活動法人 動物愛護市民団体 JCDL の提携先吹田動物霊園様専用納骨堂にて安置、安らかな眠りにつきます。
8. 提携先の吹田動物霊園様には午前 9 時から午後 6 時までの間、ほぼ年中無休（只し若干の例外あり）でお参りが可能です。

## 15. その他

1. 特定非営利活動法人 動物愛護市民団体 JC DL のイメージカラーは黄色(イエロー)です。職員のウインドブレーカー、ポロシャツ等のコスチュームや団体専用封筒、リード、募金箱等に採用されています。黄色がリードに採用されているのはお散歩時により安全を確保する為です。今後各種ペーパーやステッカーその他諸々の物は黄色で統一し、視覚でも一般の方に訴求していく考えです。
2. 収容頭数の限度は、犬の性質、小型犬、中型犬、大型犬の違い、犬の性別、犬の年齢、職員の人数、ボランティアスタッフの人数、ボランティアスタッフ月当たりの延活動日数、収入源の確保、緊急の保護依頼等を勘案しながらその都度収容頭数を決定しています。
3. シェルターの住所の詳細を告知しますと、犬や猫が捨てられますので、ホームページ上やペーパー等の番地は、すべてブラインドにしています。
4. フンの処理はビニール袋で採り、1ヶ所に集め、可燃ゴミとして清掃業者に出すか、シェルター内の水洗トイレにて処分しています。これはあくまでも合法であることを付記いたします。
5. 専門の清掃業者とも契約し、ふん便やその他のゴミ等を早期に処理し、シェルターの清潔度のクオリティーUPを心掛けています。
6. フンの処理は原則的に朝夕一日2回行っています。それ以外にも随時処理し、衛生管理の維持に努めています。
7. ドッグランの消臭には、えひめ AI - 1を採用し、環境と動物、昆虫に優しい、バイオ消臭に努めています。
8. 屋内、犬舎等の清掃には専用消毒液のビルコン(ドイツ製)を主に使用しています。
9. 来所前には必ず入浴をし、身体の雑菌を落とし、菌をシェルター内に持ち込まない様留意してください。また、帰宅後も入浴し、シェルターでの雑菌を洗い流してください。

10. 体調不良の際は御来所を見合わせることも大切です。
11. 弊職は、当活動に際し、生き物を扱っています。お盆、正月、GW等、犬猫達には関係ありません。特定非営利活動法人 動物愛護市民団体 JCDL は年中無休です。
12. 活動時間中は禁煙です。休憩時間の間は喫煙下さっても結構です。但し自分で携帯の灰皿等を用意し、処理して下さい。また、吸殻は各自で必ず持ち帰って下さい。消防法を順守し、安全管理に努めます。
13. JCDL のホームページを時々確認しシェルター全体の事を把握して下さい。
14. ある程度は仕事内容をお教えいたしますが基本的には慣れることが大事です。
15. やって見て分からなければ必ず聞いて下さい。
16. 指示が与えられなくても自分で考え、行動し、作業して下さい。
17. 電話の対応はくれぐれも丁寧に親切にお願いいたします。JCDL ではホテル並みのサービスクオリティーを目指しております。

## 16.用語解説

- |              |   |
|--------------|---|
| 1. 首輪        | カラー   |
| 2. 引き綱       | リード   |
| 3. エサ        | 食事  |
| 4. 犬小屋       | ハウス   |
| 5. 名札        | ネームタグ   |
| 6. 犬         | ワンちゃん   |
| 7. ステンレス製ゲージ | 病院ゲージ   |
| 8. 伸縮リード     | フレキシリード   |
| 9. 食器        | フードボール  |
| 10. 犬を散歩させる人 | ハンドラー   |
| 11. Jボ       | JCDL ボランティアスタッフ   |
| 12. 鼻        | マズル   |
| 13. 尻尾       | テール   |
| 14. 匹 or 頭   | 人が持ち上げて抱えられる犬は匹と数える。<br>(小型犬や中型犬等)人が持ち上げるのが長時間出来ないような犬を頭と数える。 |
| 15. ホーダー     | 異常な動物収集マニア  |
| 16. シェルター    | 一時避難所   |

世界には2つの貧困があります。

ひとつはアフリカの経済的な貧困、もうひとつは

日本の精神的な貧困です。

マザーテレサ来日時の言葉より

あ　と　が　き

このシェルターワークマニュアルは、  
不幸にして保健所のガス室でしみながら  
殺処分されていった犬や猫達に捧げます

生あるものの悲しみと尊さ  
作家 幸田文

特定非営利活動法人 動物愛護市民団体 J C D L